

「平和な世界が大切」

太平洋戦争末期にあった沖縄戦の犠牲者を悼む「沖縄全戦没者追悼式」が六月二十三日、沖縄の平和祈念公園で開催され、金武町立金武小学校六年の仲間里咲さんが自ら書いた「平和の詩」を朗読しました。

仲間さんは、戦争を体験した亡き祖父の平和への願いをつづり、その思いを継承していく決意を読み上げました。

【全文は次のとおり(原文)】

「平和の詩」

平和（ふいーわ）ぬ世界（しけー）
どう大切（てーしち）

「ミンミン」

今年も蝉（せみ）の鳴く季節が来た
夏の蝉の鳴き声は
戦没者たちの魂のように
悲しみを訴えているということ
耳にしたような気がする
戦争で帰らぬ人となった人の魂が
蝉にやどりついているのだろうか
「ミンミン」
今年も鳴き続けることだろう



「おじいどうしたの？」
左うでをおさえる祖父に問う
祖父の視線を追う私
テレビでは、戦争の映像が流れている
祖父が重たい口を開いた
「おじいは海軍にいたんだよ」
おごろく私をよそに
「空からの弾が左うでに
当たってしまったんだよ」

ひとりごちのようにつぶやく祖父の姿を
今でも覚えている
戦争のことを思い出すと痛むらしい
ズキンズキンと・・・
祖父の心の中では
戦争がまだ続いているのか

今は亡き祖父

この蝉の鳴き声を
空のかなたで聞いているのか
死者の魂のように思っているのだろうか
しかし私は思う
戦没者の悲しみを鳴き叫ぶ蝉の声ではな
いと

平和（ふいーわ）を願い鳴き続けている
蝉の声だと
大きな空に向かって飛び
平和（ふいーわ）の素晴らしさを
私達に知らせているのだと

人は空に手をのばし
希望を込めて平和（ふいーわ）の願いを
蝉とともに叫ぼう

「ミンミン」

「平和（ふいーわ）ぬ世界（しけー）
どう大切（てーしち）」